

『経営に役立つヒント』

令和四年三月一日

第二百二十六号

『葉隠』に社長が日頃心得ておくべき名言があります。『葉隠』は江戸中期に書かれた書物で、佐賀鍋島藩士の山本常朝が武士の心得を口述したものとされます。

特に、未曾有の困難・困苦・辟易・暴風雨に見舞われそうな令和四年を生き抜くために役立つものがあります。その三つを挙げて私なりの実務的解釈を示します。

一、武士道というは、死ぬことと見つけたり。

巷間にも耳にする、最も有名な心得です。武士道は、我々社長には「商道」と読み替えれば身近になります。社長として、自分の仕事に命を懸けるということ。否、経営の目的達成の為に、社長の命も惜しまないという覚悟をいいます。

短絡的に命を捨てること、自暴自棄になる事ではありません。生きて生きて生き抜くことで、最終的に理想の死を迎えられるのでしょうか。完全燃焼する生き方とも言えるのではないのでしょうか。くすぶっていては、とても死ぬことは見つからないでしょう。今こそ、経営に全責任を持つ者として、正面突破して参りましょう。

二、本氣にては大業はならず。氣違いになりて死に狂いするまでなり。

これもまた厳しい覚悟を問うて来ます。社会一般にも「あの子は野球氣違いだ!」「彼は車氣違いだ!」と言います。我々社長は、三六五日、二十四時間、会社の事を考えています。「社長は仕事氣違い!」「社長は開発氣違い!」「社長は環境整備氣違い!」と呼ばれて初めて立派な仕事ができるのです。

師匠の越智直正は、寝食を忘れて夢中になることや!時間を忘れることや!没頭することや!そうでなかったら、本物の商品は開発できないと、何度も教えてくれました。靴下で、メイドインジャパンを貫き、世界に認められたのです。

しかも、その地位にある間は、任期が終わるまで一時も気が抜けないのです。「本氣」は社員さんに求めるレベルであるということです。社長が、本氣レベルでは、まだ経営の神髄には程遠いということです。

三、同じ人間が、誰に劣り申すべきや。

年齢や、経験・資格は云うに及ばず、規模や社歴も関係ありません。学歴による劣等感など、クソ喰らえます。社長が、絶対の自信を持って先頭に行くことです。

同じ人間ではないか!同じ男ではないか!彼に出来て、自分に出来ないはずはない。無いのは勇氣だ。無いのは実践だ。無いのは氣魄だ。さあ、今こそ、あの創業の時の無我夢中の馬力を取り戻しましょう。

いざという時に(まさに令和四年の今)、社長力が試されるのです。

『葉隠』に学び、正々堂々の商道を貫いて参りましょう。必ず勝てます!

今月のポイント

命より大事なものがある!!

